

松戸市立病院だより

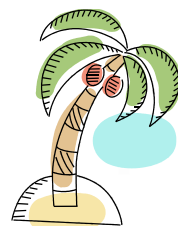


編集・発行：松戸市立病院広報委員会 〒271-8511 松戸市上本郷 4005 番地
TEL047-363-2171 (代表) <http://www.city.matsudo.chiba.jp/hospital/>

新任のご挨拶 循環器内科 福島 賢一

2016年4月に循環器内科主任部長に就任いたしました福島賢一です。循環器一般、心臓カテーテル治療を主な専門としております。千葉県出身で二児の父です。現在、市川市在住です。

2002年に山梨大学卒業後、千葉大学循環器内科学入局しました。その後、千葉大学、国保成東病院、千葉県循環器病センター、東部地域病院にて研鑽を積み、千葉大学大学院へ入学しました。大学院では冠動脈疾患治療部に所属し、心臓カテーテル治療、抗血小板薬、血管内超音波などの研究を主に行ってきました。大学院卒業後、2010年4月、当院へ就任しました。今年度で7年目となります。



◆「新任のご挨拶」	福島 賢一	—1、2
◆「新任のご挨拶」	野呂 昌弘	—3
◆「看護の日～ホッとするひと時を」	看護局広報委員会	—4～5
◆「新入職員多職種オリエンテーション」	教育研究センター	—6
◆「災害時のお薬管理について」	太田 洋貴	—7
◆「新病院建設工事の進捗状況」	建設事務局	—8

当院就任後は、虚血性心疾患の診断、カテーテル治療を主に担当し、現在まで当院で約 700 例程度加療してまいりました。当院では 2015 年 3 月より、心血管センターを開設しております。『ハートチーム』として、心臓血管外科と協力して的確に診断し、患者さんにとって最も適した治療(内服薬による治療、カテーテル治療、外科手術、経過観察など)を内科医・外科医・看護師・放射線技師・臨床工学士・臨床検査技師・薬剤師・ケースワーカーなどのコメディカルスタッフとともに行っております。ハートチームスタッフで十分検討したうえで、患者さんに納得のいくまでご説明させていただきご理解いただいた上で最適な治療を行っております。また、当院救命救急センターの協力のもと、重症心疾患による救急症例の受け入れを積極的に行っています。

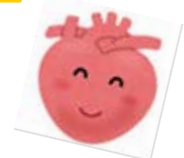
当科で扱う疾患は狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患、不整脈、高血圧、腕や足の動脈が詰まってしまう末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症)、心臓弁膜症、心筋症、急性・慢性心不全、先天性心疾患、肺高血圧症(肺動脈性・慢性肺動脈血栓塞栓症)、下肢深部静脈血栓症、失神発作など、心臓と首から下の動脈・静脈に関係したすべての疾患が対象となります。症状としては、動くと胸が痛む・息が苦しくなる、息切れがする、ドキドキする、脈がとぶ、気が遠くなる、しばらく歩くと足が痛くなるが休むとなおる、顔や手足がむくむ、急に気を失う、血圧が高い、血圧が低いなどがありますが、そのような症状でお困りのかたは、是非とも当院当科を受診してください。

例えば胸が痛む原因としては、狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患、心房細動などの不整脈など心臓が原因であること

以外にも、逆流性食道炎、胃潰瘍などの消化器疾患、肺炎、胸膜炎、気胸などの呼吸器疾患、その他、带状疱疹、肋間神経痛、不安神経症など多岐にわたります。当院は総合病院であり、当科で診断がつかない場合でも、他科の先生方と協力して各種病態に対応し、当院で患者さんの状態を改善できるように、症状の原因検索と治療を行っております。実際に胸痛を訴え当科を受診されて、胃潰瘍、胃がん、膵臓がん、気管支炎、肺がん、尿管結石など多くの疾患が見つかり当院で治療されている患者さんも多数いらっしゃいます。

また、救急診療を要する場合には、当院救命救急センターと協力して、24 時間 365 日いつでも直ちに対応いたします。

松戸市には循環器内科を標榜している大きな病院がいくつもありますが、当科では公立病院、総合病院の特性を生かして、他科の先生方、開業医の先生方とも密に連携し、当院でしかできないようなきめ細やかな、患者さんによりそった医療を実践しつつ、少しでも地域医療に貢献し、一人でも多くの患者さんを元気にできるよう頑張りたいと思いますので、今後ともよろしく願います。



新任のご挨拶

病理診断科 野呂 昌弘



今年度より診療局病理診断科部長になりました野呂昌弘です。よろしくお願いいたします。

私は平成4年に筑波大学を卒業後、同大学の病院病理部で5年間の病理診断学研修を受けたのち当院に赴任し病理専門医となりました。以来十数年にわたり当院に勤務し現在に至ります。

昨年までは前任の秋草前部長と常勤病理専門医二名で診断に従事してきましたが、本年度は常勤一人です。ただし秋草前部長を含め計4名の病理専門医より非常勤医として協力を得られることになり、病理診断の体制はより一層充実しました。

ところで、我々病理医が患者様と接する機会はほとんどありません。そのため病理診断科とは何をする科かよくご存じでない方も多いのではないのでしょうか。

患者様の病気を治療する上でまず大事なことは、適切な診断を下すことです。病気の原因や種類を知るうえで様々な検査方法がありますが、腫瘍や一部の特殊な炎症など難しい病気では、病気の部分を直接観察して原因を調べる必要があります。具体的には、患者様から採取された細胞や組織から標本を作製し、光学顕微鏡や時には電子顕微鏡を使って細胞の

形や内部構造の変化を詳しく調べることで病気の種類を決定します（当院は一般病院では少ないのですが、電子顕微鏡施設を備えています）。また手術で摘出された臓器の場合には、肉眼的な観察も病気の進行程度を決める上で重要です。このようにして得られる診断が「病理診断」であり、正しい病理診断を下すための専門的な知識と診断技術を有しているのが病理専門医です。病理診断は最終診断として病理医から臨床医に伝えられ、治療方針を決定する上で大きな役割を果たしています。

当院は総合病院であるため、あらゆる疾患の患者様が来院され、診断と治療を受けられています。したがってわれわれ病理医も幅広い疾患に対応しておりますが、腫瘍（特に肺がんや悪性リンパ腫）の診断は私が、内科における膠原病や血管炎、小児科領域における腎疾患（特に糸球体腎炎）については、秋草前部長がそれぞれ専門領域として対応しています。その他の非常勤病理医もそれぞれ専門領域の深い知識を有しており、皆で協力し幅広い疾患に対応しています。また時に診断が困難な特殊な病気もありますが、その場合はより専門的な知識を有する日本各地の病理医の協力のもとで正しい診断を得る仕組み（病理診断コンサルテーションシステム）も病理学会等で確立されています。ご安心ください。

患者様が自分の病気をよく知ることは、正しい治療を受けるうえで大切です。もし皆様の中に、自分の病気の病理診断についてよくわからなくて不安だ、あるいは、より詳しく知りたいという方がいらっしゃいましたら、病理医から患者様に直接ご説明させていただくことも可能です。どうぞ遠慮なく担当の臨床医にご相談ください。

看護の日～「ホッとするひと時を」

看護局広報委員会



看護の日とは・・・

近代看護教育の母と言われているナイチンゲールの誕生日は5月12日です。この日を含めた1週間を日本看護協会が看護週間とし、いろいろな場所でイベントを行っています。

松戸市立病院でも毎年5月にささやかですが手作りのイベントを行っています。今年度は5月12日に「ホッとするひと時を」をテーマにイベントを開催しました。このイベントのために集まった19人の看護師と広報委員で平成27年12月より話し合いを重ねながら企画・運営し、当日は患者さんやご家族など延べ226名に会場していただきました。イベントに先立ち4月の下旬より、院内の渡り廊下に看護局各部署の紹介ポスター

ーを掲示し、日頃の看護師の活動を紹介しました（写真1）。



（写真1 カラフルなポスターで各部署を紹介）

ハンドマッサージが大好評！

イベントは「ハンドマッサージ」「血圧測定」「なりきりナース&ドクター」と3つのブースを外来に用意しました。外来受診された患者さんや面会の方だけでな

く職員も立ち寄り、ハンドマッサージのブースからは「気持ちいい～」の声が聞かれました(写真2)。血圧測定ブースでは血圧を測るだけでなく、健康管理のアドバイスもさせていただき、看護師に期待されている役割を再認識しました。



(写真2 「気持ちいい～」と大好評！)

ナースとドクターになってみよう！

なりきりナース&ドクターのブースは写真撮影用の顔を出せるパネルを用意したところ、親子の来場が多く、笑顔いっぱいのナースとドクターが写真に納まりました(写真3)。

イベント担当の看護師が病棟に出張し、ハンドマッサージを入院中の患者さんにも提供させていただきました。



(写真3 写真撮影は親子に好評！)

チーバくんもお手伝い

今年度のイベントはチーバくんにお手伝いをしていただきました。チーバくんは人気者でどこに行っても写真撮影に大忙しとなりました(写真4)。ステキなエピソードがありましたので紹介します。入院中であまり起き上がることのない患者さんがチーバくんの姿を見て自ら起き上がり写真撮影に応じてくださり、ポーズをとるのに酸素チューブをはずす希望まで出してくださいました。チーバくんから患者さんには笑顔と活力を、看護師には驚きと笑顔をプレゼントしてもらった印象に残る場面でした。



(写真4 お手伝いに来てくれたチーバくん)

イベントを終えて…

「ホッとするひと時を」を少しでも感じていただけたと自負しております。この日のために集まった看護師からは「楽しかった」との声が上がりました。

新病院へ引越しが予定されているので、来年は現病院での最後のイベントとなります。何を企画しようか・・・今からワクワクしています。

新入職員

多職種合同オリエンテーション

教育研究センター

今年も4月4日と5日の2日間にわたり教育研究センター（医療教育研究部と看護教育研究部から構成）が主催して、恒例の新入職員多職種合同オリエンテーション（オリエンテーション）を行いました。対象は平成28年4月に松戸市立病院及び東松戸病院に入職した医療職で、初期研修医18名、新卒看護師46名、その他のコメディカル4名です。

オリエンテーションの目標は、「チーム医療を担う一員として、安全で安心な医療を提供できる専門職業人としての自覚を高める。」ことですが、実際のところ、若い人どうしが職種の垣根をこえた仲良しになって、病院に愛着を持ってもらい、医療の現場を明るくして欲しいというのが本音です。

職員としての心得や接遇、守秘義務などがテーマの基本的な講義のほか、多職種混成チームを6チーム（1チーム11～12人）作り、技術演習やコミュニケーションワークショップをやってもらいました。

技術演習では、チーム毎に6ブース（輸液関係・酸素療法関係・採血と血糖測定・感染管理（写真1）・気管吸引など無菌操作・心肺蘇生法）を順番にまわってもらいました。各ブースの運営には、支援者として看護師17名、コメディカル8名に参加してもらいました。また、ワークショップでは、非言語的コミュニケーションの重要性、外来診察の仕方、認知症患者やがん末期患者への対応、SBAR（患者情報の伝え方）をテーマに、コミュニ

ケーションについてチームごとに熱心な討論を行い、その成果を発表してもらいました（写真2）。



（写真1 技術演習〔感染：手洗い, PPE, 安全装置付き針〕）



（写真2 コミュニケーションワークショップ 発表風景）

終了後の感想では、「他職種からの視点や考え方を聞くことができて勉強になった。」「ワークショップでは職種に関係なく皆で同じ意見を言い合えて、協力しまとめられてチームワークが深まった。」「他のコメディカルを知ることができて仲間が増えた気分。とても楽しかった。」など肯定的な意見が多く、狙い通りのオリエンテーションになりました。

今後、各職場でいろいろなことがあると思いますが、今回の実習で経験した「チームワーク」を思い出して、患者さんにとって快適な療養環境を作ってもらいたいと思います。

災害時のお薬管理について

薬局 太田 洋貴

地震などの自然災害により、ライフラインはもちろん広範囲に及び交通網の遮断により物資の供給も困難な状況が続く場合があります。食料などだけでなくお薬も同じです。病院や薬局が被災すればお薬の供給ができなくなることも考えられます。災害時に備えて日頃から水や食料、避難道具等備えている方は大勢いると思いますが、ご自分が日頃服用しているお薬はどうでしょうか。糖尿病や高血圧などの疾患でお薬を服用している場合は、お薬がないと命に関わる場合があります。それを防ぐために以下の点に注意してください。

1. お薬手帳の管理

普段かかりつけの病院からお薬を処方してもらう場合にはカルテがあるのでそれを元に処方できますが、災害時に避難所で処方をする場合そのようなデータはありません。患者さん自身が自分の病名や服用している薬の種類・名前を把握していなくても、記載されているお薬手帳をみれば確認して処方することができます。お薬手帳はすぐに持ち出せる場所に保管し、外出時には出来る限り持ち歩くと良いでしょう。カメラ付き携帯電話(スマートフォンやタブレットなども)をお持ちの方は直近の処方された内容を写真として保管しておけば携帯電話があればその場で見ることもできます。

2. お薬の予備

災害が起きて数日は救命救急のため病院・薬局での処方困難になることも想定されます。3日~1週間分は予備として用意し、すぐに持ち出せるように保管しておきましょう。外出時でも数日分は持って出かけることを心がけてください。ただしお薬には有効期限があるため、保管してある予備薬は放置せず、定期的に入れ替えるよう注意しましょう。

糖尿病でインスリン注射を使用している方は災害時でも治療の継続が不可欠です。使用中のインスリン注射は持ち歩くことも想定され、4週間から6週間以内は室温(1~30℃)で品質の安定が保証されています。ただし開封後のインスリンは高温・直射日光を避けて保管してください。

3. 災害時にお薬がなくなったら

まずは普段かかりつけ、もしくは近隣の病院や薬局に連絡可能な状況の場合は確認してその旨をお伝えしてください。そのためにも連絡先はいつでも確認できるよう携帯電話への登録や手帳への記載をしておいてください。もし病院・薬局への連絡・移動が困難な場合には、避難所には救護所が設置されるのでそこで相談しましょう。

いざという時に困ることがないように、日頃からの備えが大切です。お薬の管理方法や心配なことがあれば早めに薬剤師に相談してください。



新病院建築工事の進捗状況報告

建設事務局 345-6601

平成29年12月
開院予定!



平成27年12月から工事着手し、地盤改良工事が完了しました。現在、躯体工事に取りかかり、平成29年9月に工事が完了する予定です。



現在

根切り工事 土を掘削した様子



基礎の鉄筋・型枠工事



免震工事



平成26年	平成27年				平成28年				平成29年					
11月	12月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	12月
契約	実施設計				建築工事				移転作業				開院予定	
		造成工事(第1工区)		造成工事(第2工区)		道路工事								

契約から開院までのスケジュール